

平成 27 年度第 1 回（第 7 回）米沢市総合計画審議会 会議録

1 日 時 平成 27 年 4 月 17 日（金） 15：00～17：00

2 場 所 伝国の杜小会議室

3 出席委員

尾形健明会長、安部美和子委員、泉多恵子委員、大和田浩子委員、奥村あい子委員、小野浩幸委員、佐藤大喜委員、柴田正孝委員、島津眞一委員、白井裕久委員、白石祥和委員、鈴木清治委員、清野雅好委員、中嶋朱実委員、我妻仁委員  
以上 15 名

（遠藤秀平委員、小野寺忠司委員、佐藤晃代委員、林宗太郎委員は欠席）

事務局

副市長、総務部長、企画調整部長、市民環境部長、健康福祉部長、産業部長、建設部長、会計管理者、水道部長、市病事務局長、議会事務局長

（教育管理部長、教育指導部長は欠席）

総合政策課 課長、総合計画策定室長、担当

4 会議録

（1）開会

（2）会長あいさつ

会 長 皆さん、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。前回は 1 月 16 日の開催でしたので、もう 3 か月も経ちました。新年度になりますので、もう一度頭をリセットするくらいで構いませんので、御意見を色々と頂戴したいと思います。どうぞよろしく願いいたします。また、2 月 2 日に中間意見書を市長へ提出いたしました。そこから、本日御審議いただく内容で若干変わっているところもありますので、併せて様々な御意見を頂戴したいと思います。この審議会のメンバーは変わっておりませんが、会を重ねるごとに緊張もほぐれてきていると思いますので、皆さんの思いを遠慮なくお話しいただければ、その方が良いアイデアが出ると思います。加えて、新年度となり、市の部長も変わられておりますので、我々の意気込みや熱気を感じさせるくらいに活発に意見交換したいと思います。本日はどうぞよろしく願いいたします。

（3）審議会委員及び事務局の紹介

（事務局より出席委員及び事務局の紹介）

（4）議事

事務局 審議会条例第 5 条第 2 項の規定により、会長が議長となることとされております。尾形会長に議長をお願いしたいと存じますのでよろしくお願いいたします。

会 長 それでは、議事に入ります。はじめに、前回の審議会から日数が経っておりますので、確認の意味でこれまでの経過と今後の日程等について事務局から説明をお願いします。

事務局 資料「米沢市新総合計画の歩み」に基づき説明

- 昨年 5 月から今年の 1 月までの期間に計 6 回の審議会を開催し、市民アンケート等の実施により得られた幅広い市民の方からの意見を参考にしながら協議

を進め、本年2月には中間意見書を取りまとめでいただき、市長に提出していただきました。

- 今回の基本構想案につきましては、この中間意見書を踏まえまして、事務局で原案を作成し、3月に内部の庁内策定会議などを経てまとめたものとなっております。また、この期間に市内部で基本計画のたたき台を作成し、現在内部で検討しているところであります。

資料2「平成27年度米沢市総合計画審議会開催予定表」に基づき説明

- 平成27年度の審議会は本日も含めまして8月までの間に4回の開催を予定しております。本日と次回5月に予定している第2回目の審議会で、基本構想についてほぼ固めていただき、基本計画につきましては次回第2回目の審議会と6月に予定している第3回目の審議会で固めていただくとともに、7月にはパブリックコメントを実施し、8月上旬にはパブリックコメントの結果を踏まえまして計画の答申案について御審議をいただき、市長に答申をいただく予定で進めさせていただきたいと考えていますので委員の皆様のお協力をお願いいたします。
- なお、次回審議회를5月19日（火）午後3時から市役所会議室で開催する予定としておりますので、御予定を合わせていただくよう併せてお願いします。

会 長

ありがとうございました。5月に第2回目の審議会、6月にも第3回目ということで、月一回のペースで審議会が開催されます。答申に向けた追い込みですので皆さまよろしくお願ひいたします。それでは、改めて議事に入りたいと思います。本日の会議につきましては、午後5時までには終了したいと考えておりますので、議事の運営につきまして委員の皆様のお協力をお願いいたします。それでは新総合計画基本構想（案）について、事務局から説明願ひます。

事務局

資料1「米沢市新総合計画（基本構想案）」に基づき説明

- 本日の審議会におきましては、資料1の基本構想案について御審議をいただくものであります。
- 資料1の表紙の裏に計画案の目次を掲載しているところです。計画全体の構成としましては、3部構成とし、今回御審議をいただく基本構想は、第2部に掲載予定の部分となっております。なお、第1部については、計画策定の趣旨、計画の構成、米沢市の現況等について、第3部は基本計画を掲載することとしており、次回以降にお示しをする予定としております。
- 本日の審議の進め方ではありますが、基本構想は4章立てとなっていることから各章ごとに事務局から概要を説明したのち、章ごとに御審議をいただきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。
- はじめに第1章の「将来像」について御説明をいたします。1ページを御覧願ひます。将来像については、これまでの御審議・中間意見書等を踏まえ、本市が将来ともに発展していくためには、豊かな心を育ててきた先人たちの精神文化を継承・向上させるとともに、未知なるものへの果敢な挑戦が創造を生み、そしてまた新たな創造に繋がるといった連鎖が必要であるとの基本的な考え方のもと事務局でまとめさせていただいたところです。この基本的な考えを端的

に表すものとしまして案①としまして、『ひとが輝き 創造し続ける 学園都市・米沢』、案②としまして『ひとが輝き 創造し続ける都市(まち)・米沢』の2案を将来像として提示させていただいたところです。

- 案①は、米沢ならではの特色を強く打ち出すことに主眼を置き、米沢の特色として学園都市という言葉を入れさせていただいたところであり、今後御審議をいただく基本計画においても学園都市を活かしたまちづくりの施策を可能な限り盛り込んでいくことを予定したものであります。
- 案②については、総合計画に盛り込むべき施策等が多岐にわたり、学園都市と直接絡まない施策等も少なからずあることから、米沢としての特色は薄れますが、全ての施策と基本的にはつながることに主眼を置いたものであります。
- 委員の皆様には、事務局提案を参考にさせていただき、将来像をどのように定めるのかについて、また、案文について過不足がないかどうかも含めまして御審議をいただきたいと考えておりますのでよろしくをお願いします。

会 長 それでは、委員の皆様から第1章の将来像について御意見を頂戴したいと思います。将来像について案①や案②あるいは、そのほかに案があれば出していただき、本日で決定したいと考えています。前回キャッチコピーをどうすると話をしておりましたので、皆さまから御意見があればお願いします。私個人的には米沢らしさが欲しいなと思います。この米沢を他市に置き換えても成立するものは意味がないと思っています。審議の中で皆さんから御意見をいただいた時に、米沢の特殊解が必要じゃないかと言われていたので、米沢らしい言葉が欲しいと思っ  
ていまして、山大と栄養大学の4年大学が2つもあり、人口の5%が大学生という事情を考えると、「学園都市」は他にはない特色だと思っておりました。もっと良い言葉があれば発言をお願いします。

委 員 前回までの話の中で、米沢らしさということであるならば、「上杉の城下町米沢」としてもいいと思います。

会 長 今回のまちづくりにある人づくりも上杉鷹山が行ったやり方といいますか、興讓館を創設して人づくりをしたということもありますので、「上杉」はあってもいいかもしれませんね。ローカル色豊かに言葉を作って、思い切り出してもいいと思います。

委 員 サブタイトルの表現だと、この長さでもいいと思いますが、キャッチコピーとして受けてもらうとすると、もっと短い語句でまとめたほうがいいような気がします。サブタイトルとしてこの「人が輝き…」の文章が来るといいのではないのでしょうか。例えば「いいね。米沢」や「メイド・イン・米沢」のようなキャッチをさせて、サブで「人が輝き…」がくればいいなと考えました。

会 長 ありがとうございます。他にございますか。

委 員 将来像のところですが、文言も良くなってきたと思って読ませていただきました。特に歴史的なところで、草木塔や棒杭市のことが記載されていてすごく読みやすいと思いました。やはりキーワードとしては「学ぶ」や「つくる」、「チャレンジ」といった表現が、全体を読んだ時に当てはまると思いました。しかし、案にある「学園都市」は将来像へ入れてもいいのかどうか疑問に思ったところです。

確かに市内に大学はありますが、学校はどんどん市外へ移転している中でこれから学園都市として進んでいく覚悟があるかどうか疑問が残りました。また、歴史や上杉・兼続の「愛と義の精神」など先人に学ぶことはとても大事なことで、それに触発されて若者が色々なことを行っていくことはあり得ることなので、その文言も入れていたほうが良いと考え、私なりの案としては、「故きを知り、新しきを創る、挑戦都市（チャレンジャーシティ）米沢」というのを考えてきました。やる気が起きるような、あおるような感じがあってもいいと思って考えました。

会 長 ありがとうございます。「故きを知り」で歴史のまちが想像できますね。

委 員 将来像については、この審議会が発足した当初、海外を視野に入れた国際的なところに話題がありました。今回の案には、国際的な社会の中でまちづくりをするという思いが薄いと感じました。地域経済の活性化においてももう少し米沢のブランドを海外にまで発信できるような仕組みづくりや、教養や文化を高めるにあたって国際交流を行うなど、海外を視野に入れたまちづくり（将来像）であっていいのかなと思いました。また、キャッチコピーの案①と案②のどちらかを選ぶのであれば、学園都市には色々な可能性を秘めているところもあるので、「学園都市・米沢」は特徴的なまちづくりのキャッチコピーになると思いました。

会 長 ありがとうございます。事務局としては、将来像は本日決めたいところではありますが、皆さんから御意見を頂戴し、次回5月に出すという方向でもいいでしょうか。

事務局 はい。

会 長 では、他に御意見があればメール等でお寄せいただければと思います。先ほど委員から発言のあった「故きを知り」という「温故知新」はいいかなと思っています。他に御意見ありますか。

委 員 先ほど「メイド・イン・米沢」が出ましたが、すごくいいと思います。「メイド・イン・東京」と書いてある商品を見た時、すごくプライドがあつていいなと思いました。ぜひ、米沢でできたものには「メイド・イン・米沢」をつけて出したりできればいいですね。

会 長 そういう意味では、今回ふるさと納税でNECのノートパソコンが一日で申込みが終了したという話がありますので、工業製品は初めての事例じゃないかと思うのですが、これも「メイド・イン・米沢」ですね。

委 員 第1章の文章の中ほどですが、「米沢栄養大学との協働による健康増進や農業振興」と記載がありますが、農業振興というところが気になりました。どのようなイメージで農業振興となっているか教えていただきたいです。

委 員 私も同じところに疑問を持ちまして、「米沢栄養大学との協働」とありますが、米沢栄養を削って「大学との協働」にしたらいいと思いました。なぜならば、山形大学工学部でも有機ELを使った農業振興を考えているようですので、削ることで両大学との協働という意味を持たせた方がいいのではないのでしょうか。

事務局 先に御質問ありました米沢栄養大学との協働による農業振興につきましては、食材との関係を考えていまして、健康分野だけではなく食材として活用できないかということで農業振興と結び付けました。また、山形大学工学部の有機ELか

ら農業振興に貢献できる素材もありますので、米沢栄養大学に特定するものではなく、米沢にある高等教育機関や大学という表現がいいのか事務局で検討いたします。

委員 「農業振興」でひっかかった理由としまして、米沢栄養大学は食品企業との事業連携は行っておりますので、農業というところを「産業」にした方がいいのかなと思ったところでした。

会長 どうしても農業振興というと米づくりといった作物をつくる農業のイメージがありますね。

事務局 「食品関連産業」という表現ではいかがでしょうか。

委員 そうしますと、先ほどの委員の山形大学工学部の有機ELによる農業振興の部分が合わなくなるのではないのでしょうか。

会長 では事務局で検討して整理していただきましょう。他にありますか。

委員 学園都市が今のところ大学に限定されているような表現になっているのですが、高等学校教育も学園都市の中に入れた方がいいのではないかなと考えています。高校も大学と協働して頑張っているので、大学という表現でなく、高等学校教育も含めた表現にすることで、高校から大学までの広い表現にしたほうが良いと思います。

会長 以前もその御意見いただいていますね。高校生を巻き込んだ形の「学園都市」ですね。事務局でもう一度検討願います。他に御意見があればメール等で御提出下さい。では次に、第2章の基本理念・基本目標について説明をお願いします。

事務局 資料1「米沢市新総合計画（基本構想案）」に基づき説明

- はじめに、基本理念について説明をいたします。2ページを御覧願います。
- 中間意見書に基づき、まちづくりを進める上で、最も基本とする姿勢を表わすものとしまして「市民が積極的に参加するまちづくり」を基本理念として定めたとあります。また、まちづくりを進める上で重要となる「人づくり」を中心とした取り組みを推進し、郷土や地域への愛着を感じる市民意識の醸成とともに、市民と行政が積極的に交流し、様々な分野で米沢のために貢献するという意欲ある市民の参画をさらに進めていくこととしているところです。
- 「人づくり」は「人の連携」「人の定住」「人の育成」の3つの取り組みを推進するとし、3ページには概念図を掲載しているところです。
- 次に基本目標について説明をいたします。4ページを御覧願います。基本目標については、「挑戦し続ける活力ある産業のまちづくり」、「郷土を創る人材が育つ、教育と文化・協働のまちづくり」、「自然と都市の魅力が調和し、賑わいと交流を促すまちづくり」、「健やかな育ちといきいきとした暮らしをともに支え合うまちづくり」、「安全安心に暮らすまちづくり」、「持続可能なまちづくり」の6つを掲載しているところです。
- この基本目標につきましては、原則、中間意見書でお示しいただいた4つの柱に沿った形でまとめているところですが、中間意見書から変更した点としましては、中間意見書では「健やかな育ちと安心な暮らしを支え合うまち」として一つの柱としていた、健康福祉分野と防災・防犯等の分野を分割させていただ

いて、健康福祉分野については「健やかな育ちといきいきとした暮らしをともに支え合うまちづくり」とし、防災・防犯等の分野については「安全安心に暮らすまちづくり」としたほか、「持続可能なまちづくり」として行政経営の分野を追加させていただいたところです。

- 6ページには、将来像、基本理念、まちづくりの柱の関係をまとめた図表を掲載しているところです。
- 案文について過不足がないかどうかも含めまして基本目標のまとめ方等について、御審議をいただきますようお願いいたします。

会 長 第2章の基本理念・基本目標について御意見があればお願いします。

委 員 2ページの基本理念のフレーズですが、「市民が積極的に参加するまちづくり」はなるほどと思いました。前の将来像の「人」「創造」がキーワードになっていましたので、市民の市民による市民のためのまちづくりなのだろうなという感じを持ちました。ただ、他の案が思いつかないですが、一般的な表現という感じがします。3ページ下から3行目ですが、「人の育成では、市民が意欲や「能力」に応じて学ぶことができ」とあり、能力に応じて学ぶということに色々な解釈ができて、誤解を受けかねないという感じを持ちました。何となく分かる気もしますが、誤解が生まれてきそうなので、表現を変えたほうがいいのかと思いました。

会 長 ありがとうございます。工夫が必要かもしれませんね。学びたいときにいつでも学べますという感じを出せばいいのでしょうか。

委 員 私も同じように、誤解が生じるのではないかと思った表現があります。2ページの6行目にある「意欲ある市民の参画」です。市民活動においては、個々の市民レベルは高く、とても意欲的だと思います。それをどうまちづくりにつなげていくかが「市民の意識の醸成」につながっていくと思いますので、「意欲ある市民」だけではなく、市民の積極的なまちづくりへの参画という「参画」の仕方の形容表現を丁寧にしたほうがいいのではと思いました。また、4ページの基本目標の部分ですが、4つの目標が6つになり、健康福祉と防犯防災を分けたことには賛成します。私自身も児童福祉の分野で働く者として、一緒にすることに違和感がありました。今回分けていただいたことで、焦点もクリアになると思います。

会 長 ありがとうございます。基本目標を6つにして、すっきりして重要性がよく解るようになったので、良かったと思います。

委 員 2ページのところで、先ほど委員がおっしゃられた通り、本当に「意欲ある市民」は沢山いると思います。その方達をどうやって支えていくか、また、そういう人達を表に出していき、その人達を支える仕組みや組織づくり、リーダー育成等をどの位できるかが大事だと思うので、支える方の事も少し入れた方がいいのかなと感じました。表現は、「支えていきますよ」とした方がいいのかどうかですが。また、市民が積極的に参加するまちづくりについては、本当にその通り何ですけれども、少し受動的というのか、「参加してくださいね」と待っているような感じがしてしまうので、もう少し参加を促すような、自分達で創るまちのキャッチコピーを考えてみました。やはり、歴史的にも米沢は会津から上杉が移ってくる時に、家来を皆連れてきて皆で土地を耕しながら作っていったという経緯がある

ので、例えば、「皆で耕せ、人・物・まち」という表現はどうでしょうか。皆で本当にコツコツと作っていくっていうイメージですね。私のイメージはそんな感じですよ。皆で参加するという意識を積極的に持ってもらえるようなキャッチコピーが良いなと思いました。

会 長 今の提案に対して、皆さん御意見はありますか。先程の最初のキャッチコピーもそうでしたが、歴史を感じさせるところが良いですね。今すぐと言っても、意見も出ないと思いますので、お考えおきください。またメール等でご意見をお寄せいただければありがたいです。他に御意見ございますか。

委 員 3 ページの人づくりを中心とした取り組みの下部にある精神の3つ目、「人の育成」の文言ですが、「学校教育・生涯学習の推進」とありますが、この生涯学習というのは、学校教育も含めた、生まれてから老年までの幅広い学びを意味するように思うので、学校教育も当然生涯学習という範疇に入るのではないかとと思うので、ここをどう捉えたらいいのかなと、私は疑問に思いました。生涯学習の表現を前に持って行って「生涯学習・学校教育の推進」としたらいいのか、学校教育と対比するものとして「社会教育の推進」としたらいいのか、検討いただきたいと思います。また、同じ表現が6 ページにもあります。

会 長 ここで書いている生涯学習というのは、社会教育の意味合いが濃いのでしょうか。

委 員 私はそう思います。

委 員 私が以前の審議会でも教育に関して、学校教育の他にも社会人になって色々な資格を取るために、学ぶ事が多々あると発言しました。今、資格社会の中で学校を出ても様々な場面で学ばなければならず、誰にも学ぶ機会が今後増えるでしょうし、学び易くする環境も必要だという意味で、学校教育だけではなく、社会人になっても、学んでいかなければならない場面が沢山ありますという意見を出しましたので、それをまとめて生涯教育としていただいたのかなと思います。ですから、社会教育と言っても道徳的な教育のような部分でないのかなと思います。スキルを高めるための専門的な教育も含めてほしいという意見を含んでいるのかなと思います。

会 長 では、事務局側としての適切な言葉を、そこに入れていただくようお願いします。では、4 ページの基本目標についてはいかがですか。

委 員 基本目標の4 番目のタイトルですが、「健やかな育ちといきいきとした暮らしをともに支えあうまちづくり」となっており、この後の施策大綱第4 章でも出てくる訳ですけども、まず、タイトルが「健やかな」というのがこの後の第4 章を見ていくと、「誰もが健やかに暮らせることを第一に考え」と明記されていて、違和感があるのは、タイトルの中に「育ち」という言葉があることです。「育ち」の部分は「子育て」をイメージしますので、ただ、4 番目の基本目標では、若い世代が安心して子供を産み育てられる事も項目に入っていますし、それ以外に高齢者や障がい者が住み慣れた地域で生きがいを感じながら暮らすという表現も入っていますので、タイトルから「育ち」の部分を外した方が良いのではないかと思います。「健やかでいきいきとした暮らしとともに支えあうまちづくり」とした方

が良いのではないかと思います。

会 長 皆さん、いかがですか。

委 員 4番目のタイトルは、私もこだわりがあります。安心して子育て期を送ってもらいたいし、子ども達の育ちをしっかりと保障する部分を銘打っていただきたいので、タイトルから「育ち」を外して欲しくありません。今までの話し合いの中で、郷土愛、原風景として子ども達が「米沢って良いところだな、自分の住んできたところ、育ってきたところは良いところだな。大人が子ども達の事を考えてくれて、大きくなってきたのだな。親だけじゃなく、地域の大人が自分たちの事を考えてくれたのだな」と思えるような子どもの育つ歳月を踏んでほしいと思います。そのために、通学路の整備や育てる親の立場として授乳時間の定着や育児休暇の取りやすさ等を具体的な策として盛り込んでいただきたいと思います。だから、4番目の基本目標にある「育ち」の部分が据え置いていただきたいと考えますし、将来像の学園都市とのつながりもあるのですが、今までの審議の流れから、子どもや若者に焦点を向けて行こう、これから育っていく子ども達に、どう地域を考えてもらえるかという部分で積極的に大人としてアプローチしていこうという部分を確認してきた経過があるので、ここは残していただきたいです。また、二つ目に、少し戻りますが、基本理念の図にある、人の育成が学校教育から始まっていますが、ぜひ幼児期が何らかの形で絡んでくるような子育て期の部分も、人の育成には入れていただけたらと思います。さらに、基本理念の市民の積極的なまちづくりへの参画の部分でいうと、NPOやボランティアの充実だけではなく、先程も申しましたように、市民の個々のレベルでは積極的な市民活動も行われているので、社会活動という部分も当てはまると思います。人の育成という点で社会活動も大きなポイントとなるのではないかと思います。

会 長 今回の発言で、育ちの部分についていかがでしょうか。

委 員 4ページの基本目標ですが、特に12ページにある施策大綱に基本目標6項目があり、それに該当する項目が13ページにあるわけですが、これを見て思ったことが、まず1番目の施策として「誰もが元気で健やかに」ということでして、2番目が「生きがいを持って高齢期を過ごす健康長寿のまちづくり」ということで高齢期のことが書いてあり、4つ目に「安心して産み育てることができる環境づくり」があることから、やはり全部の項目にこのタイトルは合わないのではないかと思います。タイトルは残して項目を整理する方が良いのかもしれないと思いました。

会 長 13ページにある項目を整理してまちづくりの柱4のタイトルに合うようにすべきとの意見ですよね。それも検討事項ということでお願いします。

委 員 基本目標の題名がわかりにくいのではないかと思います。まちづくりの柱4でいうと健やかな育ちとでいきいきとした暮らしということで文章が長くてどこで切ったらいいのか分からないので、「健やかな育ち」が子育ての部分で、「いきいきとした暮らし」が高齢者の部分だと思うのですが、それをストレートにタイトルを出した方がよいのではないのでしょうか。子育てをしやすいまちというのはすごく大事なポイントだと思います。また、安全安心に暮らすという部分も雪だ



とか雪対策などを出して項目自体を分かりやすくした方がいいのではと思いました。

委員 米沢としての特色を出すということを目標に話し合いをしてきたところですので、基本目標についても他の市と入れ替えても通じるようなものではだめだと思います。基本目標があつての各項目だと思imasるので、まずは、米沢らしい基本目標となるべき文言がないのかなと思います。そうするともっと分かりやすくなると思imasるし、今のままでは米沢らしい目標が見えてこないと思imasる。

会長 基本目標の各項目をもう少し米沢らしくするという御意見で、例えば安全安心のまちづくりは雪に負けない米沢のまちづくり等にすることですよね。米沢の特徴が表れるような目標にしてはいかがですかという御意見だと思imasるが、全てでは難しいですね。

事務局 例えば、基本目標の1番目は工業分野として全国的にも前を進んでいるというところでこのような表現をさせていただいたと御理解をいただけるものと思imasるが、4番目の子育てや高齢者の健康、そして障がい者の福祉については、米沢だからこうするというものが打ち出しにくい部分が行政的にはあります。どこの自治体でも推進したい部分ではありまするが、国の制度においても、子育て等扶助関係は制度化されているところであり、そうした中でどの程度米沢の特色を出していけるのかということになりまするので、色々と委員の皆様の御意見をいただいたうえ、事務局で検討したいと思imasる。

会長 1番から6番目までが全て米沢でなくてもいいということにしないと、あまりにも考えが狭くなってしまうので、程々に入っていればいいのかと思imasるのでそのような方向でお願いをしたいと思imasる。他に御意見等がなければ、次に、第3章の人口・土地利用について説明をお願いします。

事務局 資料1「米沢市新総合計画（基本構想案）」に基づき説明

- 人口・土地利用については、これからのまちづくりを進める上で基礎となる、人口の想定値と土地利用に関する基本方針を定めるものであります。
- はじめに人口について御説明をします。7ページを御覧願imasる。グラフでお示ししているとおり、本市の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば平成32年には81,618人、10年後の平成37年には、77,587人まで減少することが予測されているところですが、今後、様々な人口減少対策に取り組むことにより、転入転出の差である社会動態については、人口問題研究所の推計どおり、平成32年度までに現在の半分程度に縮小するものとし、合計特殊出生率については、平成37年までに人口問題研究所の推計を上回る1.8までに回復することを想定し、平成37年の想定人口を人口問題研究所の推計値と比較して約1,000人増の78,600人と見込んだところでありまます。
- 次に8ページの土地利用については、公共の福祉を優先するとともに、適正な利用が図られることを原則とし、土地利用に関する法律等の適正な運用、集約・ネットワーク型の土地利用、土地の保全と安全性の確保、環境保全と美しくゆとりのあるまちの形成を目指すこととしていているところではす。
- 人口・土地利用についての考え方について、御審議をお願いいたします。

会 長 第3章の人口・土地利用について御意見があればお願いします。この計画の最終年度平成37年度には78,600人がいれば一応目標は達成されたと言えるのでしょうか。今回の県議会議員選挙でも公約で人口減少対策をうたっていることから政治的にも危機感を持っていることは伝わってきています。今回我々が考えた方法で人口減少に少しでも歯止めがかかればと思います。

委 員 基本構想は良くできていると思います。文言も挑戦的なものが増えたなど感じています。一方でこの構想ができて今も今の米沢市と将来の米沢市は変わらないのだらうとも感じました。変わらないことも極めて重要なことなので変わらないということが悪いということではないのですが、理念を見ると米沢の人づくりということで、これは米沢の良さだと思います。人に投資をして、結果として人が輝くまちをつくるということ自体は非常に統一性が取れていると思うのですが、今の米沢市がそういうまちでないかという、そうではなくて、非常に教育水準が高く、市民の向学心も高いし、教養も高い、歴史的な文化も高いまちです。これを総合計画で明確化して何がどう変わっていくのだらうと考えると、いくつかの委員の意見にあったように、もう少しパンチがあったり、挑戦という言葉があったりした方が良いという意見になったのではないかと思います。この構想ができて将来の米沢が何らかの形で変わるのだらうかという目線を見たときは、あまり変わらないような印象を持ちました。3章の関連でいくと人口予測をきちんと考えていくと、少し楽観的な国立社会保障・人口問題研究所の試算方法を使って、なお、1,000人上積をしていくということになるのですけれども、実現可能性という点からすると十分理屈の立つ数値ですし、1,000人といえども、それなりに挑戦的な数値なのかもしれませんけれども、グラフを見る限りトレンドがほとんど変わらないことから10年後米沢はやっぱり変わらないのではないかと感じてしまいます。もう少し何かないのかなと思ひまして、発言できずにいたところです。8ページの土地利用について土地利用関係法令の適切な運用とありますが、法律があれば適正な運用は必要であることから、こうとしか書きようがないのかもしれないませんが、単純に文章を読んだ時に市とか市民という主語がないので市は国や県に対して当事者化能力がない仕組みになっているのかという点が気になりました。土地というのは人に次いで地域が持っている最大の資源であるわけですからその土地をどう使っていくのかということが色々なことを考えていく上でのファンダメンタル（基礎となるもの）でリソース（資源）である訳ですから少しさびしいなと感じたところです。

委 員 土地利用について出てきたのは色々な意味があるのだらうなと思います。事務局で一番言いたいことは、(2)にあるコンパクトなまちづくりをするにあたっては、今の米沢の土地利用の制約をうまく乗り越えて調整していかないと、コンパクトなまちづくりに向けた、いわゆる中心市街地に人口をある程度集約し、かつ、山村地域は今、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」における今後の施策の方向として示されているような拠点地域としていくために、土地利用をしっかり考えていかななくてはならないということは分かるので、土地利用というと、いきなり出てきた感じがするので、コンパクトなまちづくりをテーマとして中心市街

地や山村地域をどう活用していくのかという視点でコメントをしていただければと思います。人口については、国立社会保障・人口問題研究所の数値よりも厳しい数値があるので、それに比べてこれから計画を立てていくうえで10年後の平成37年に1,000人くらいをアップするというのは固めに見積もった数値だと思うのですが、これが10年後に向けて挑戦していく計画であるのならば、やはり37年には横に行くくらい、下げ止まりがするくらいの推計値を掲げていただきたいと思います。そのために色々な施策を講じる必要があると思います。また、4ページに戻って、基本目標の1から6はすべて重要なのですが、この6つの中でこれから10年何に力を入れてやっていくのだというものが欲しいなと思います。当然1から6までの目標はすべて必要ですし、これはやらないというものはないと思いますが、最重点課題としてやっていくべきものを選択と集中で優先性をつけられないものかと思います。私個人的には、4番の目標にある保健・医療・福祉と子育ては是非分けていただき、子育てを目標の一つとして入れていただきたいなと思います。しっかりとした雇用が確保され子どもを生み育てていけるのだという目標を高らかに掲げていただきたいと思います。保健・医療・福祉と当然連携していくわけですが、できれば別項目にしていいただきたいと思いません。

会 長 人口減少を止めようとするれば、やはり子育てとなり、そうすると雇用がということになり、色々なところに関わっていくわけですが、この会議も最初は人口減少という認識を持つところからスタートをしました。それを10年間で何とか止めようというくらいの気持ちがあったわけですので、委員のおっしゃる通り人口減少に特化した計画とするのも一つの方向性としてはあるかもしれませんが、御意見としてうかがっておきます。このことも含めて事務局にお願いしますので、検討願います。

委 員 従来から米沢市は総合計画をつくってきたわけですが、そうした流れというよりはもう少し危機感を持って、時代の変化と共に今までとは違う人口減少・高齢化に対応することを頭に入れたほうが良いのではないかと思います。市民が人口減少や高齢化をどれだけ知っているのか、どれだけ自覚しているのかという点にも注意して行政はやっていかななくてはいけないのではないかと思います。市民が危機意識を持つような情報公開も検討すべきではないでしょうか。また、基本目標6番目の持続可能なまちづくりの中に、行政もこれまで以上に積極的に取り組んでいくということを入れていただきたいと思います。今までの時代とは違う大変な時代に作る計画であるという認識を持って計画策定にあたるべきと考えました。

会 長 皆さん同じ気持ちではあるのですが、文章化すると中々これだというものにならないところが今後の検討になるかと思いますが、本日は色々御意見を伺うということとします。他に御意見等がなければ、次に、第4章の施策大綱について説明をお願いします。

事務局 資料1「米沢市新総合計画（基本構想案）」に基づき説明

- 9ページ以降の施策大綱について説明をいたします。施策大綱については、6つの基本目標に基づき、各基本目標を達成するための基本方針について、中間

意見書に基づいてまとめさせていただいたところでもあります。

- 1の挑戦し続ける活力ある産業のまちづくりにおいては、新しい産業を生み出すための取り組みの推進、地元の特産品を活かした商品開発、情報発信力の高い観光地づくり、地域住民との協働による農山村の振興などに取り組むこととしているところです。
- 2の郷土をつくる人材が育つ、教育と文化・協働のまちづくりにおいては、学校教育活動、社会教育活動、スポーツ活動、芸術文化活動等の推進、郷土への愛着と誇りを持つための教育、地域で抱える様々な問題を地域で解決できる協働の仕組みづくりなどに取り組むとしているところです。
- 3の自然と都市の魅力が調和し、賑わいと交流を促すまちづくりについては、森林や河川の保全、再生可能エネルギーの普及促進とともに、コンパクトなまちづくりの推進、道路や公共交通機関等の環境整備等に取り組むこととしているところです。
- 4の健やかな育ちといきいきとした暮らしをともに支え合うまちづくりについては、医療機関、福祉、介護施設等の連携の強化、予防に重点を置いた健康づくりの推進、高齢者や障がい者等に対する日常的な生活支援のほか、子育てを支える環境づくりや婚活支援策の推進、市立病院の機能充実等に取り組むこととしているところです。
- 5の安全安心に暮らすまちづくりについては、公共施設や家屋の耐震化等の推進、災害時の情報収集・伝達体制の整備による危機管理体制の強化を図るほか、交通事故や消費者被害を防止するための環境整備、また、効率的な除排雪体制の整備を図るなどに取り組むとしているところです。
- 6の持続可能なまちづくりについては、健全な財政基盤づくりなどに取り組むとしているところです。
- 案文について過不足がないかどうか、また、まとめ方等について妥当かどうかについて施策大綱の全体を通して御審議をお願いいたします。
- なお、12ページ以降に参考資料としまして施策大綱に基づいた基本計画の体系案を載せているほか、基本計画の構成案を本日お配りしておりますので、御参照願います。

会長 ありがとうございます。9ページから13ページまでを一通りご覧いただきながら、御質問や御意見をお願いいたします。

委員 私から1点だけよろしいでしょうか。ぜひお願いしたいなと思います。1番の「挑戦し続ける活力ある産業のまちづくり」ですが、産業政策に係わり最終的に行き着くところが、「多様な就業機会を生み出し、地域内の雇用の拡大と安定を図る」とあります。つまり、雇用対策が終着地点になっています。かつての地域産業政策の主たる目的は雇用の確保でした。しかし、今般この審議会で議論してきたように人口構造が変わってきて、主たる地域産業、主たるテーマは雇用の確保安定ではなくなると私は思っています。これについては色々な議論があるかもしれませんが、今は、もうすでに地域産業の実態から見ると、雇用の場がないというのが主たる課題ではなくて、むしろ、雇用したい人がいない、人材がいないと

いう問題の方がはるかに大きくなってきています。それは今、アベノミクスで景気が良くなったからではなくて、構造的なものだと思っています。従って、今後の地域産業の究極の目的は、雇用ではなく所得の向上だと思います。私達も、地域活性化会で地域の状況について色々な調査をしています。世帯の所得の600万～800万を確保できる地域には、若い人達がUターンして戻ってきています。やはり今後は所得向上を政策の中にもっと明確に打ち出していても良いのではないかなと思います。それと関連して、いただいていた中間意見書の現状分析の中にも米沢市の産業構造の最も特色的な課題は何かというと低付加価値にあるとはっきり書いてあります。にも関わらず、個々の施策にどう付加価値を上げていくのだという文言が一言もない。付加価値が上がらない以上、所得が上がる事はあり得ないのです。ですので、政策の方向性の転換を考えて盛り込んでいただけたら良いなと思います。

会 長 貴重な御意見と詳しい情報をありがとうございました。所得が世帯ベースで800万円になれば、かなり人が集まってくるということでしょうか。

委 員 一部の地域では所得が800万円以上で戻ってきています。

会 長 人材がないとは、地域内で人材がないということですか。

委 員 労働市場において人手が足りないのです。優秀な人財は不足状態です。

会 長 我々も、認識を新たにしないといけないところがありますね。他にご意見ございますか。

委 員 A4の別紙を配っていただきましたので、御覧ください。9ページからの2の「郷土を作る人材が育つ」ですが、中々よくまとまっていますが、米沢の特色の2行目の「鷹山大学が開校されるなど」というところに「各コミュニティーセンターなど」と入れていただければ良いかなと思います。なぜなら、各コミュニティーセンターなども頑張って活動をしているからです。それから、「豊かな教養を育む環境」というところに活動力も入れた方がいいのではないかと思ったところです。単なる教養だけじゃなくて、活発に地域づくりの動こうとしている方々が沢山いらっしゃいますので、活動力も入れてもらったらいいのではないのでしょうか。特に六郷コミュニティーセンターでは、農家レストランといった活動を各市内のコミュニティーセンターを中心にして実施しておりますので。また、「上杉」という言葉を入れてもらったらどうでしょうか。人材育成で、「中学生、高校生世代は」と原文にはあるのですが、アンケートをせっかく取っていただいたのですが、どうも本当に皆そう思っているというのでは、問題があるような気がしますので、若い世代はとぼやかした表現の方がいいではないかと思ったところです。9ページの最後ですけれども、「郷土への愛着と誇りを持つための教育を推進」とありますが、これは今までの市の計画と同じです。それで下線を引いておきましたが、まちづくりに貢献する心を育てるように努めていきますと入れていただきまして、なるべくなら米沢で頑張ってもらいたいです。外に出ていっても米沢を応援していただくといった、米沢のために貢献する心という文言を入れておいていただけたらなと思ったところです。また、上から4行目で、学校教育活動、社会教育活動のところで「活動」の2文字は共にいらないのではないかと

思ったところでした。学校教育、社会教育で一般的に通用していると思います。学校教育活動というのは、あまり文言として適切ではない気がしますので、教育関係の部署で尚考えていただければと思います。スポーツと芸術文化には、活動があってもいいと思います。検討をお願いします。

委員長 ありがとうございます。今の提案に対して何か御質問や御意見ございますか。  
委員の修正案を見せていただき、まちづくりに貢献する心を育てるというのは、非常にいい事だと思うのですが、その教育が出てくるというのは、この2番目「郷土を作る人材」というところでしか出てこないの、この大綱を読むと、自分が生まれ育った故郷を愛して、そして一度はどこかに行くかもしれないけれども、出来るだけ行かないで地元に残って一緒に皆で頑張っていきましょうということが教育の目標のように見えるものですから、そこはもう少し多面的な表現を出来ればしていただいて、やはり国際的な人材を育てて行くという表現がいいのではないのでしょうか。人材で不足しているのは、非常にレベルの高い、グローバルかつ技術的にハイレベルな特殊な職業能力を持った人達、いわゆる、付加価値の高い人材を育てて行くのだということで、それが、学園都市である米沢から育てて、その方が外に出てくかもしれないけれども郷土を愛する心を持って、外からも見つけたり戻ってきたり、支援したりし、かつ他にも付け加えてもらいたいなど思ったのは、やはり定着や人材の交流です。定着の中には外からの人材も引き入れてくるということを含めた上で、教育というのは、単にまちづくりをする人材を作るための教育じゃないという視点をこの大綱の中に入れていただきたいなと思います。

会長 ありがとうございます。山形大学と県教育長が昨日テレビ出ていました。もう少し協力関係を築いて、地元の山形大学にもっと進学して欲しいということのようです。県内から20%~30%ぐらいしか山形大学へ進学していないのですよね。それでは、他に御発言ありますか。

委員 第4章の1番目、「挑戦し続ける活力ある産業のまちづくり」で、私は農業をしておりますので、農林業の部分についてですが、担い手の育成、経営安定化、地産地消、生産性の向上は今に始まった事ではないと思っています。これは何十年も前からの課題なのです。今、私はある組織の青年部委員長をしているのですが、若い農家の人達は現状には満足してない訳で、先程も委員から話がありましたけれども、農業分野にとっても、所得向上が必要です。何か新しい事をするにもまずは自分の所得を上げなくては進めないというところがあるので、自分で作りたいものを作り、ただ、それを単純に売るという発想だけではなくて、他の商業や観光業との連携を取りながら新しい米沢のブランドをつけられるくらいの独自の農産物も作れたらいいねという話は、以前から議論されていますので、農業面でもくるものでもなく、商業・観光と連携を図って、新しい商品に結びつけられるような、明るい先が見通せるような文言にしていただけると、農業面からするとうれしかなと思います。地産地消に対しても、結局これは消費者の方だけじゃなくて、そのまわりにいる農業以外の方にも知ってもらったうえでできることでもあるので、農業者だけが知っていてもどうしようもない問題だと思うので、商

業・観光との連携は強調していただきたいと思います。六次産業化は名前としては出てきますが、安易に受け入れられないというのが、農業者からすると現状にありまして、六次産業化は誰がやってもうまく行くような感覚でいくと大変かなと思います。

委員 この大綱の中で、13ページにまちづくりの柱として何点か挙げられていますが、「挑戦続ける産業のまちづくり」の中に「女性や若者などのすべての市民が働けるまちづくり」とありますので、文章の中にも若者と女性を取り入れていただきたいですし、先ほどあった所得の問題に関しても、シングルマザーが増えてきている印象を持っており、女性を守ることも必要だと考えているところです。また、基本構想と別になるのですけれども、若い人で他県から米沢に春に引っ越してきた方もいます。今の米沢に魅力を感じて、引っ越してきた貴重な方なのかもしれませんが、そういった人を広報などで取り上げていただければと思います。わざわざ米沢に定住したいという若い人がいるので、魅力を中高生に伝えるなど活用するほか、どういう方が米沢に魅力を感じやすいか、ターゲットを絞る意味でも、移住者を取り上げれば、米沢の魅力を他の視点から感じられるのではないかなと思います。

委員 本日の皆さんの意見を聞かせていただき、大変参考になりました。社会福祉協議会でも現在米沢市の地域福祉活動計画という5年間（平成27年度から平成31年度）の計画を立てております。委員からも言われるのが、計画が立つのは素晴らしいが、立てた後実行してもらうには、市民に米沢の現状や、5年、10年先をこうしていこうという気付け方が重要だと言われたのが印象的でした。皆さんの意見を聞いてそう感じました。いかに市民に気づかせて、積極的にまちづくりに参加しようとさせることが必要だと感じました。

委員 施策大綱の一番で、委員がおっしゃった産業の「高付加価値化」による市民の所得増を目指すことは同感です。では、そうするためには、今後10年間にどのように産業振興をしていくのか。工業面では、内発型産業を誘発させる呼び水となったり、触媒になったりするのとは何かということ、米沢にある大学だと思います。やはり大学とともに地域の産業が生きていく、これが米沢らしい今後10年の産業振興の一つの焦点になると思います。この点をぜひ明確に位置付けていただきたいと思います。確かに雇用は厳しい中にありますが、特に工業分野では米沢だけでなく全国的にそういった状況にあります。そういった中で、ドイツは新産業革命、いわゆる第4次産業革命を担っていかうとしています。AI（人工知能）での無人化工業がこの10年で急速に進んでくると思います。米沢の工業も、ますます高付加価値化が求められると思います。次に商業面。米沢の年間商品販売額は1千億を切って、940億くらいのはずです。そして、その多くを外からの資本の大型店に占有されているというのが現実です。これも内部留保、地域内循環があまりないのです。今、盛んに注目されているのが、全国の小売販売額総額の14%約17兆円市場と言われているネットビジネスです。これからは、このネットビジネスを視野に入れていかなければならないと思います。大手ネット業者などは、ほとんどが大型店と同じような仕組みで、手数料を30%前後取りま

すので、商品自体の原価率を低く抑えないと中々利益が上がらないのです。こういう仕組みは、やがて消費者には支持されない世の中になってくると思います。やはり米沢市独自のプラットホームをつくるということが必要になってくると思います。その流れを考慮に入れて商業も捉えていただきたい。大型店に関して避けて通れない本質的な問題は、地域としてこれ以上の大型店の出店を是とするか非とするか、ということです。福島県のように大型店の進出を規制する条例をつくるなど、ドラスティックな政策を行うかどうか。そういった政策の落としどころを考えながら大綱を作っていければ、より具体的になるのではと思います。もう一点は、人口問題です。施策大綱の中に、持続可能なまちづくりとあります。これは今後の人口動向と密接連関する問題だと思います。市民が積極的にまちづくりに参画する、と理念に謳われております。これまでのようなオールマイティの行政は今後コストがかかり過ぎる。そのコストを負担する人口が少なくなると、一人ひとりの負担が重くなります。ですから、市民一人ひとりが自立して、人が人のために何か役に立つのだという意識を持って地域づくりを行っていくということは、いい方向性だと思います。それが社会的コストの低減につながり、ひいては、持続可能なまちづくりになるものと思います。そして、もう一つは、近隣市町村との連携です。例えば米沢市だけで様々な基本的なインフラをフルセットで用意する時代でもなくなってきました。それを近隣市町村同士が気持ちや旧習の障壁をなくして、お互いに分担して持ち合い、活用し合うようなことが、持続可能なまちづくりには非常に大事になってくると思います。この両面での記載をいただいているので、さらに明確にしていければと思います。

会 長 ありがとうございます。かなり具体的なお話をいただきましたので、とりまとめをお願いします。他に御意見等がなければ、全体を通して御意見があればお願いします。

委 員 第4章ですが、先ほど委員から挙げてもらった子育てを1本柱に立ち上げるという意見で、4本の柱から独立しただけで満足してはいけなかったと反省しました。ありがとうございます。明確に子育てを1本柱に立ち上げていただきたいという思いを込めながら、そこの中に、前もお話ししましたが、子育てしやすい環境という部分で、産前産後休暇の確保や授乳時間の拡張も、柱の中の施策に盛り込んでもらうことで、米沢市が子育てしやすい環境を応援している指標になると思っています。企業に勤めている人に見れば、休まれると戦力として欠けるわけですので、理解してもらえない状態にあると思います。だからこそ、理解を広めていくことが大事であり、子育てしていくことの応援になると強調してもらえたらと思います。

会 長 ありがとうございます。とにかく人口減少を食い止めようと思ったら子どもがいなくてどうしようもないですね。問題がたくさんあるようなので10年間で改善が必要だと思います。他に御意見等がなければ、本日の御意見を踏まえ、事務局の方で再度調整をして、次回皆様にお示するというところでよろしいでしょうか。

委 員 異議なし



会 長　それでは次に進みます。その他についてであります、委員の皆様や事務局の方から何かありますでしょうか。

事務局　再度日程の確認だけさせていただきます。次回審議会は5月19日（火）午後3時から市役所で予定させていただいておりますのでよろしくお願いいたします。

会 長　会議室はB棟になりますよね。市役所と別の建物でどこに行ったらいいかわからない方もいるかと思しますので、地図をつけていただきたいと思います。場所は北側の長屋のような建物です。本日の審議はここで終了させていただきます。スムーズな議事運営に御協力いただきましてありがとうございます。次回一カ月後またよろしくお願いいたします。

事務局　本日はお忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございました。これをもちまして本日の米沢市総合計画審議会を閉会いたします。

(5) 閉会

以上